

排水溝の7倍の雑菌が入った水で行われている歯科治療

歯医者さんに行くと、キーンと鳴り響く歯を削るドリルの音を耳にする。これはタービンという虫歯などを削り取る機械の音。タービンは作動すると同時に、摩擦熱を冷却するために常に水を噴射する。こうして治療を受けた後には、水でうがいをするのがお決まりである。もしもこれらの水に大量のばい菌が混入しているとしたら……想像するだけでもゾッとしますが、実はこれ、アメリカでは歯科医療で多用する水によって感染症が確認されて、大きな問題に。全米歯科医師会では、情報と対策をインターネットの専用サイトで公開しているそうだ。

ところが変わって世界的にトップレベルの安全性を誇る日本の水道水。アメリカとは違うのでは、と思うかもしれない。たしかに日本の水道法では「1ccの水に細菌は100個以下」と厳格に決められている。ところが水道の蛇口から出た水が、歯科医院にある諸々の機械設備を通過するうちに、細菌が繁殖してしまうというのだ。

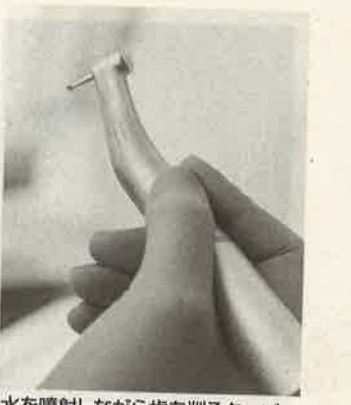
歯科医療の治療設備にたずさわる関係者によると、「ペットボトルに水道水を入れて、常温でしばらく放置すると大量の細菌が繁殖する

ように、歯科医院の大部分が滞留した水に繁殖してしまっている」といいます。

一番の問題はタービン(歯を削るドリル)。タービンが停止すると水の噴射も止まるが、この際に噴射口に付着した患者の唾液がチューブに入り込み、滞留している水に混ざってしまっているという。この現象はサックバックと呼ばれる、歯医者さんの間では問題視されている。

歯科医院でタービンが噴射する水や、うがいをする水を調べてみると、その中には1ccに7万個もの細菌が存在していた例もあったそう。これは水道法で定める水質基準の700倍。

よくに、歯科医院の大部分が滞留した水に繁殖してしまっている」といいます。



水を噴射しながら歯を削るタービン

家庭の排水溝を流れる水と比べても7倍の細菌数である。ちなみにこの驚くべき細菌の数は、第58回日本歯科医療管理学会総会で発表された学術論文から抜

不安の一抹

子供から高齢者まで、何かとお世話になることが多い歯医者さん。そんな頼りになる歯医者さんに今、ひとつの不安材料が取りざたされている。端的に言えば、治療の際に使われる水に多量のばい菌が潜んでいるかもしれない、というのである。すでに一部の歯科医院ではその対策に乗り出しているという。安全性に細心の配慮をほどこした、歯科医療の最先端をルポルタージュしてきた。

粹した数値。日本歯科医師会でも10年前にこの治療水の衛生上の問題を会報誌で取り上げ、警鐘を鳴らしている。

歯科治療に行くと別の感染症に罹患して帰って来る。こんなことが現実に起こる危険性は低くないのである。

きれいな水「除菌水」で安全になった歯科医療

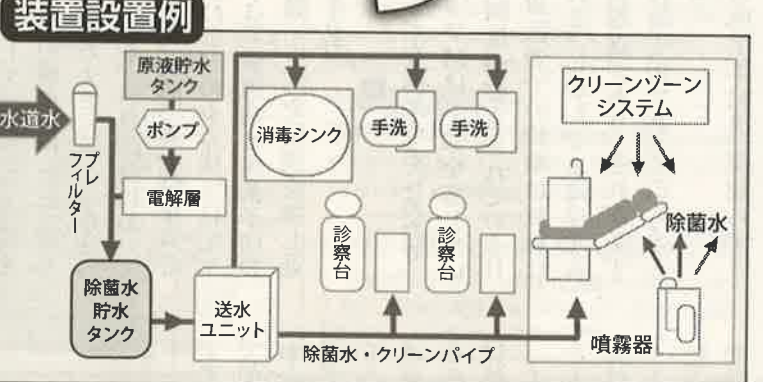
ここまで聞くと歯医者さんに行くのが怖くなるが、日本の歯科医療現場には、この問題に20年以上前から取り組み、安全な水で歯科医療を行っている人たちがいる。それがポイック(POIC®)研究会というNPO(特定非営利活動法人)団体。ポイックとはProfessional Oral-infection Control(「口腔内感染を完全に制御する」といった意味で、歯科医や大学の研究者、歯科医療設備の開発者など2030名が所属。700の歯科医院が加盟している。ポイック研究会で理事長を務める、歯科医の矢島孝浩先生にお話をうかがった。

「治療に使う水が無菌状態にすることは、半世紀以上前から私たち歯科医療に従事する者にとつての大きな課題でした。ただ個々の力では限界がある。そこで20年前に有志が集まって研究会を立ち上げ、みんな

えっ!? 治療水に細菌が...

歯医者さんの水に潜む

アメリカでは歯科治療時の感染症が問題に!?



きれいな治療水を作るためにはどうしたらいいか、考え始めたのです」(矢島先生)

化学や生理学の専

「この装置は水道水の電気分解など、いくつかの工程を経て弱酸性にすることで、殺菌力を持つ水を作り出します。大事なものは人体には安全なこと。この水を歯科治療に使えるすべての機器に流すことで、機器自体も常に清潔に保たれるシステムです(上図参照)。使われている水そのものに殺菌力があるので、タービンの噴霧口からサックバックで混入したばい菌も、たちどころに殺菌されて無菌水になるのです」(矢島先生)



やじま歯科医院院長・POIC®研究会理事長 矢島 孝浩先生

この装置は世界初の連続除菌治療システムとして特許を取得しており、開発当初は莫